

Economic Indicators

発表日: 2022年9月8日(木)

国際収支(2022年7月)

～経常収支(季調値)が赤字転化。先行きも目立った改善は見込みづらい～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支
					貿易・サービス収支		
					貿易収支	サービス収支	
2021	7月	17,153	11,581	▲ 2,198	2,620	▲ 4,818	16,360
	8月	15,005	10,148	▲ 4,007	▲ 889	▲ 3,118	15,736
	9月	10,180	8,030	▲ 7,339	▲ 4,036	▲ 3,303	17,227
	10月	10,994	7,371	▲ 6,822	▲ 2,650	▲ 4,172	16,070
	11月	9,142	12,387	▲ 4,079	▲ 459	▲ 3,620	18,348
	12月	▲ 2,675	8,638	▲ 7,369	▲ 4,046	▲ 3,323	18,025
2022	1月	▲ 12,157	1,647	▲ 10,462	▲ 3,688	▲ 6,774	13,875
	2月	16,333	5,092	▲ 11,939	▲ 7,720	▲ 4,219	19,886
	3月	25,909	15,976	▲ 9,842	▲ 5,471	▲ 4,372	28,161
	4月	5,011	5,115	▲ 13,955	▲ 9,861	▲ 4,094	21,558
	5月	1,284	82	▲ 14,461	▲ 11,867	▲ 2,595	16,271
	6月	▲ 1,324	8,383	▲ 18,320	▲ 15,865	▲ 2,455	28,435
	7月	2,290	▲ 6,290	▲ 24,260	▲ 18,087	▲ 6,173	20,363

(出所) 財務省「国際収支統計」

○経常収支(季節調整値)が赤字転化

7月の経常収支(原数値)は+2,290億円の黒字(コンセンサス: +7,950億円の黒字、レンジ: ▲792億円の赤字～+10,665億円の黒字)となった。原油高や円安を背景に貿易赤字の拡大が続き、前年同月から▲14,962億円と減少幅が拡大した。

季節調整値では、経常収支は▲6,290億の赤字(前月: +8,383億円の黒字)となった。経常収支はこれまで、貿易収支の赤字幅拡大が続く中、所得収支の一過的な上振れがカバーしてきたことで黒字に踏みとどまっていたが、7月は所得収支が実勢へ戻り黒字幅が縮小したことで、経常収支も2014年3月以来の赤字転化となった。

内訳(季節調整値)をみると次の通り。貿易・サービス収支は▲24,260億円の赤字(前月: ▲18,320億円の赤字)となった。貿易収支は、輸出(前月比+0.8%)、輸入(前月比+2.9%)ともに前月から増加となったが、原油高や円安の影響で輸入の伸びが輸出の伸びを上回る展開が続き、赤字幅拡大となった(前月差▲2,222億円)。6月の上海のロックダウン解除後も、部品供給不足の影響が残り、主力の自動車輸出を中心に伸び悩みが続いていることが足を引っ張っている。これに加えて、7月はサービス収支の赤字が大幅に拡大した(前月差▲3,718億円)。もっとも、これのほとんどの要因はその他サービス収支の支払額の増加によるもので、一過性の影響とみられる。

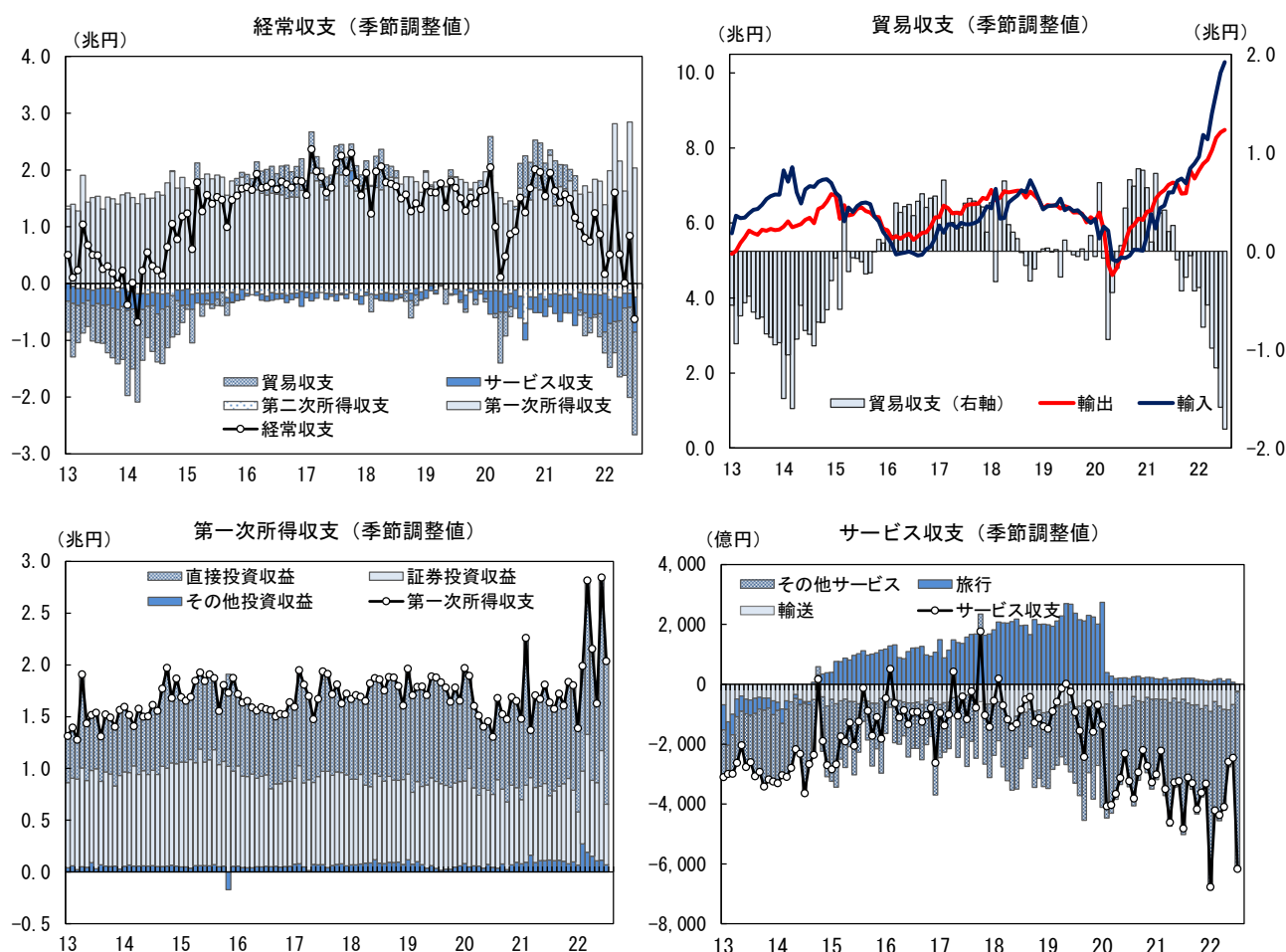
第一次所得収支は、+20,363億円の黒字(前月: +28,435億円の黒字)となった。前月は大口の配当金受取が重なったことで上振れていたが、こうした一時的要因が剥落したことで実勢に戻り、前月

から黒字幅縮小となった(前月差▲8,071億円)。黒字幅は縮小したものの、円安進行が押し上げ要因に加わり、均せば第一次所得収支は堅調な推移を続けている。

○経常収支の目立った改善は見込みづらい

先行き(季節調整値)については、貿易収支は高水準の赤字での推移が続く公算だ。輸入面については、欧米諸国の急ピッチな金融引き締めによる世界経済の減速懸念の強まりから、足元の原油価格は下落基調に転じており、これまで大幅な上昇を続けてきた輸入物価は来月以降伸びが一服する見込み。ただし、輸出面においても、景気減速感が強まる米国向け、欧州向けが足を引っ張ることで、下押し圧力の強い状況が続く。貿易赤字となっている現在、円安の進行は貿易収支の悪化要因になりやすいこともあり、貿易収支は今後も高水準での赤字が続くだろう。

第一次所得収支の大幅な黒字が貿易・サービス赤字を補うことで、経常赤字が定着する可能性は低いとみる。もっとも、貿易・サービス赤字の改善には時間を要することから、当面は経常収支の目立った改善は見込みづらく、目先も単月で赤字となる可能性は高い。先行きの経常収支は、小幅の黒字ないしは小幅の赤字での推移が続くだろう。



(出所) 財務省「国際収支統計」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。